

河村式作文プリント

寄せられた困難事例へのアドバイス紹介

「誕生日の手紙が書けない」

Q：本学級ではお誕生日会の関係で、毎月バースデーカードを書きます。しかし、手紙プログラムで指導してもなかなか書き出しが思い浮かばないようで、固まってしまいます。同氏どうすればよいのでしょうか？

A：お誕生日の手紙で一番難しいのは最初と最後ではなく、中間部分です。なぜなら中間部分はパターン化がしにくく、相手との関係性によって書きぶりも変わってくるからです。

そこで最初に考えることは書き出しの難度を下げることです。最初は「〇〇さんへ、〇歳のお誕生日おめでとうございます。」という定型句を練習し、暗記してしまうと楽に書けます。この書き出しで勢いをつけると、中間部分の筆が進みやすくなることがあります。

次に、書き終わり周辺の末尾、ここも定型化して難度を下げます。「最後が楽」という流れをつくると、ここを糧にして中間部分の筆記が円滑になるケースがあります。定型句としては「これからも仲良くしてください。よろしくお願いします。〇〇より」という感じの文を暗記させてしまいましょう。

そしてメインとなる中間部分ですが、他のプログラム（日記・感想文・観察文・新聞）における文章のレパートリーが不足している場合、「相手との思い出 or 長所を列挙する」「その中から選択する」という練習をすることがオススメです。思い出が浮かばない場合は行事を列挙させてみましょう。長所が浮かばない場合、座学の勉強の得意なところ、体育、友達との関係、音楽の歌や楽器、廊下に張ってある図工の絵などから選ばせてみましょう。

これらのネタが一切浮かばない場合はクラス全体に振って友達にも意見を募り、本人はそこから選ぶ練習をするのも良いでしょう。

※ここで重要なことは「分からない」といって固まっている時間を1秒でも減らすことです。じっくり考えさせたいという方針の先生もいますが、この時間は作文を嫌いになる原因となります。

※他者の助言を受け入れず、「会心の一文以外は書かない」というタイプの子もいます。これはSSTを行う上で良いターゲットです。柔軟に人の意見を受け入れることを目標とし、受け入れたらよい思いができた、という経験を積みませましょう。